

SRP (Striking Rare Peculiar)

オルガノン § 153

ホメオパシーの治療薬として特殊なレメディーを探しだすことは、すなわち、自然の病気における症状の総体と既存のレメディーにおける一覧化された症状リストとを対照することである。こうすることによって数あるレメディーのなかから、類似性の点で治療すべき病気に対応した人為的な病気を生じさせる効力のあるレメディーを見つけ出すのである。

そのためには症例において、とりわけ唯一、次のような徴候や症状だけに注目すべきである。すなわち、**際立った、特有の、まれな、独自の**(特徴的な)徴候や症状である。

というのも、レメディーが治療に最も適したものであるはずなら、**求められたレメディーの一覧化された症状リストにおけるきわめて類似した症状は、とりわけそのような徴候や症状に一致していなければならないからである。**

ごく一般的ではっきりしない症状、たとえば、食欲不振、頭痛、衰弱、不眠、不快などは、それ以上詳しく記録できないなら、総じてあまり注意を向けるに値しない。こうした一般的な症状はどんな病気でも、どのレメディーでもみられるものだからである。

ホメオパシーにおいては、以下のような症状がもっとも重要とされています。

「際だった」 **STRIKING** (strange 「奇妙な」 ということもある)

「まれな」 **RARE**

「特有の」 **PECULIAR**

これらの頭文字をとって「SRP」といいます。ホメオパシーの世界では頻出する重要な言葉です。クライアントを（一般化ではなく）個別化するためには、他の人と異なったところに注目する必要があります。

折に触れて身近な人や物の最も際だった特徴（SRP）を見出していくようにしてください。これはとても大きなことなのです。

(以上)